

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21720055

研究課題名(和文) シギズムンド・クルジジャンフスキイと演劇：ロシア・アヴァンギャルドと世界劇場

研究課題名(英文) Sigizmund Krzhizhanovsky and the Theatre: "Theatrum Mundi" in Russian Avant-gardes arts

研究代表者

上田 洋子 (UEDA YOKO)

早稲田大学・演劇博物館・助手

研究者番号：40505400

研究成果の概要(和文)：ロシアモダニズム期の作家 S.D.クルジジャンフスキイによる、芸術における演劇的構造に関する指摘を出発点として、19世紀末から20世紀初頭に誕生した演出家主導型の演劇に関する調査・研究を行った。海外でのアーカイブ調査を経て演劇の豊穡と他の芸術との相関関係を確認した。論文と学会発表以外に、演劇博物館所蔵の未整理資料調査の結果発見した同時代の貴重な資料等を用い、展示および図録での成果発表を行った(「メイエルホリドの演劇と生涯」展、「ロシア演劇のモダニズムとアヴァンギャルド」展)。

研究成果の概要(英文)：A survey for Russian modernist and avant-gardes "directors' Theatre" was done for the purpose of the verification of the "theatrical" structure of modernist arts proposed by a Russian modernist writer S. D. Krzhizhanovsky. Different archives researched mainly in Moscow and St. Petersburg to study relationships between the theatre arts and the other art genres in modernist ages. As a result of these studies, papers and articles were published and were organized two exhibitions *Theatre and Life of Meyerhold* and *Modernism and Avant-Gardes in Russian Theatre*, displayed the newly sorted and explicated materials from the collections of The Tsubouchi memorial Theatre Museum. These materials were also published in the catalogues of both exhibitions.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：ロシア演劇

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：演劇、ロシア・アヴァンギャルド、メイエルホリド、シギズムンド・クルジジャンフスキイ、展示

1. 研究開始当初の背景

(1) 2008年秋に提出した博士論文では、シ

ギズムンド・クルジジャンフスキイ(1886-1950)の文学における制約性

(**условность**)と記号性の問題を扱った。また、この作家の芸術を論じたエッセーのなかで最も重要な「演劇に関する哲学原理」(1923)に論じられている、世界認識のモデルとしての演劇の問題(世界劇場)、および芸術全般の持つ演劇的構造を明らかにした。演劇の問題はクルジジャノフスキイの創作を考察する上で極めて重要であるが、これを論じた先行研究は限られている。博士論文で提起したこの問題に関して考察を進めるため、クルジジャノフスキイの提起する演劇のモデルを同時代の演劇に相関させて考察することが有効であると考えられた。

(2) モダニズム期のロシアでは、演劇および舞台芸術が黄金時代を迎えていた。スタニスラフスキーやメイエルホリドらの理論と実践は現代演劇や映画に広く応用されている。この時代のロシア演劇に関する研究は少なくないが、特に粛清されたメイエルホリドに関しては、彼が20世紀の演劇の方法論の基盤を築いた重要な人物であるにもかかわらず日本における研究が進んでいない。

(3) メイエルホリドおよびロシア・アヴァンギャルド芸術に関しては、ソヴィエト時代は自由に研究ができる環境がなかったが、ペレストロイカ期からさまざまなアーカイヴが公開され、多くの新しい資料が手に届くようになった。ソ連崩壊後20年が過ぎた現在、ロシアでの研究には一定の成果が見られ、欧米でもそれを反映した研究が行われている。

(4) こうした状況を演劇博物館が収蔵する資料の傾向と併せて鑑み、メイエルホリドの演劇を中心に研究することとした。また、クルジジャノフスキイが協力していたタイロフのカーメルヌイ劇場も併せて研究対象とした。メイエルホリド劇場とカーメルヌイ劇場は同じ方向性だったが、のちに対立関係となる。ロシア・アヴァンギャルドを代表するふたつの演劇の比較検討から見えてくるものも多いと考えられる。

2. 研究の目的

(1) 世紀転換期のロシアにおいて演出家主導型の演劇が登場した経緯、および自然主義の破綻からメイエルホリドやタイロフのような演出家たちが演劇の制約性を前景化させる方法をとっていった経緯を概観。この時期活発に行われるようになるジャンル間の越境の問題に関して調査・考察する。

(2) メイエルホリドの演劇の理念と方法の研究。2009年度に展示を実施、この演出家の

創作活動を概観する基礎的研究を行い、2009年度に早稲田大学演劇博物館で展示を実施。

(3) タイロフのカーメルヌイ劇場の理念と方法の研究。

(4) メイエルホリドの演劇の探究とクルジジャノフスキイの演劇的芸術論のコンテクストを明らかにする。同時代の演劇の活況を概観し、2010年度に演劇博物館でモダニズム・アヴァンギャルド演劇を扱う展示を実施。(3)の成果の発表もここで行う。

(5) モダニズム・アヴァンギャルド期の〈世界劇場〉の理念に関する基礎的研究。

(6) (1)~(5)の研究を鑑みた上で、クルジジャノフスキイの創作における〈演劇〉のテーマを再考する。

3. 研究の方法

(1) モスクワ・サンクトペテルブルグにおけるアーカイヴ調査。

国立文書館、演劇人同盟学術図書館、バフルーシン演劇博物館、サンクトペテルブルグ演劇音楽博物館、ロシアドラマ博物館、国立図書館他、複数の図書館・博物館・アーカイヴで調査を重ねた。国立文書館にはクルジジャノフスキイとメイエルホリドの主要なアーカイヴがあるが、今回の研究ではクルジジャノフスキイを中心に調査を行った。メイエルホリドのアーカイヴは演劇人同盟学術図書館のものを重点的に調査した。国立文書館では閲覧できる資料の数が限られており、申請から出納までの間に時間がかかるため効率が悪く、また、まだ基礎研究の段階であったこともあり自由な閲覧の機会を与えられた機関を優先した。作業のためにノートパソコンとデジタルカメラ各1台を購入した。

2010年度は同時代における逐次刊行物など、メイエルホリドに関するより緻密な調査を展開し、またカーメルヌイ劇場を含む同時代の演劇全般に関する調査を行った。

(2) 演劇博物館所蔵ロシア演劇資料調査
演劇博物館が所蔵するロシア関係の未整理資料の大々的な調査を行い、その大部分について演劇博物館のデータベース科研等と連動しながら整理・目録化を行った。特に逐次刊行物の端本やパンフレット・プログラム類は未整理のものが大量にあり、なかにはメイエルホリド劇場やカーメルヌイ劇場の同時代の資料も多く発見された。演劇博物館にはロシア語スタッフが常駐しているわけではないため、展示図録でその大部分を紹介し、

目録化した。

(3) 早稲田大学文学学術院戸山図書館所蔵マイクロフィルム調査

早稲田大学文学部学術院戸山図書館には、メイエルホリド劇場とカーメルヌイ劇場の機関誌を含む20世紀初頭の演劇・映画雑誌のマイクロフィッシュ、およびロシア国立文書館に原本のあるメイエルホリド劇場アーカイブのマイクロフィルムが所蔵されている。これらの貴重な資料を調査し、必要なものはプリントアウトして収集した。

(4) 早稲田大学中央図書館所蔵貴重書調査

近年、ロシア・アヴァンギャルドのアートブックが再評価されている。マレーヴィチやゴンチャロフ、ロトチェンコら優れた画家のデザインによるこれらの書籍のなかには、未来派オペラ『太陽の征服』やフレーブニコフの劇形式の詩など、当時の演劇を証言する重要な資料が多い。カラージュや手書きの文字などのデザインにも、書籍に動きを取り入れようという志向が見られ、ある種の演劇性を持つこれらの書籍の調査を開始、一部に関しては展示で紹介した。

(5) ミュンヘン・ベルリンにおけるアヴァンギャルド演劇・美術の調査

2010年夏にミュンヘンで開催された国際演劇博物館図書館連盟学会(SIBMAS)および国際演劇学会(IFTR)参加に合わせて、ミュンヘンとベルリンでアヴァンギャルド芸術の調査を行った。主にバウハウスと表現主義における演劇を対象とし、さらにモダニズム期に生まれ、現代美術においては一ジャンルとしての位置を確立したパフォーマンスに関しても調査を行った。

4. 研究成果

(1) ロシア国立文書館クルジジャノフスキイ・アーカイブ調査の結果、「演劇に関する哲学原理」の現在出版されているテキストが手稿とはかなり異なる、粗雑なものであることが判明した。これまで、意味が取れない、あるいは論理的整合性のない箇所があるのは、この未発表のエッセイが完成稿ではないことの証であると考えてきたが、実際にはタイプによる手稿を写した際の不注意に由来することが判明した。同時に、これまで類推で解釈してきた部分がおおむね正しかったことを確認した。テキストの不正確さに関しては、作品集の編者V.ペレリムーテル、および大半の著作でクルジジャノフスキイに言及しているM.ヤンポリスキーらとコンタクトを取り、情報を共有した。調査の結果を踏

まえて、日本ロシア文学会全国大会で「シギズムンド・クルジジャノフスキイの散文における演劇の要素」と題する発表を行った。

(2) 同じくクルジジャノフスキイに関して、演劇人同盟学術図書館において調査を行った。ここにはソヴィエト最大のシェイクスピア学者A.アニクストのアーカイブがあり、彼がクルジジャノフスキイの没後出版しようとした作品集の原稿、彼自身のクルジジャノフスキイ評価、および彼が聴講したクルジジャノフスキイが参加する講演会のプログラムなどが収蔵されていることが判明した。現在、一連のクルジジャノフスキイに関する研究成果として、翻訳作品集を出版する計画が動いており、(1)および(2)の資料はそこに収録する解説に反映させることになる(2012年頃出版予定)。

(3) 2010年3月1日～4月28日に演劇博物館で「メイエルホリドの演劇と生涯」展を開催。また、展示に併せて図録を作成した。期間中に5202名の来場者があり、これは大学博物館の展示で、なおかつ演劇博物館が目玉としている日本演劇関連の展示以外のものとしては、記録的な数である。この展示の準備のために、本研究の枠内で演劇博物館の未整理資料を調査し、また学内の複数の図書館の調査を行った。さらに、海外の複数のアーカイブや博物館で資料調査を行った。この展示企画に関連する研究として行われた調査は以下のとおりである。

① 演劇人同盟図書館 A. フェヴラリスキー旧蔵メイエルホリドアーカイブの調査。

メイエルホリド劇場のドラマトゥルクであったフェヴラリスキーのアーカイブには、革命前のものを含む写真・ポスター・プログラムの他、エスキス等も含まれており、非常に貴重であることがわかった。演劇博物館に収蔵されていない写真資料150点余りを展示用に選定。

② サンクトペテルブルグ演劇音楽博物館アーカイブ調査。

メイエルホリド関連資料のうち、この博物館が所蔵するのは主に革命前のもので、手稿や書簡などの未公開資料も含まれている。衣装図と、演劇人同盟図書館には所蔵されていなかった写真を展示用に選定した。同時に、博物館側からの依頼で、同館所有の日本演劇資料に関する調査を行った。

③ サンクトペテルブルグ・アレクサンドリンスキー劇場ドラマ博物館における調査。

メイエルホリドがかつて芸術監督をしていたこの劇場には、『仮面舞踏会』『ドン・ジュアン』の衣装や小道具が大量に展示されている。資料調査に加えて、劇場学術部主任のチェプロフ氏に資料発見と考証のいきさつに関する聞き取り調査を行った。また、資料として写真や音楽 CD の提供をいただいた。

④ モスクワ・バフルーシン演劇博物館、メイエルホリドの家博物館での調査。常設でメイエルホリドの展示を公開しているメイエルホリドの家博物館を訪問、館長マケローワ氏に展示の方法やコンセプト、関連企画等に関して話を伺った。メイエルホリドの家博物館の母体でもあるバフルーシン演劇博物館では、写真の状態アーカイヴの一部を見ることができたが、公開データベースがないどころか、出納や閲覧の方式も決まっておらず、展示協力を依頼するのは難しいと判断した。

⑤ 展示終了後の2010年7月、ミュンヘンで開催された演劇博物館図書館連盟学会で、この展示に関する報告を行った。また、メイエルホリドの演劇に関する調査をその後続行し、その成果を宇都宮美術館での招待講演、および演劇映像学連携研究拠点のシンポジウムで発表した。

(4) 2011年3月1日～4月13日に早稲田大学演劇博物館にて「コレクションに見るロシア演劇のモダニズムとアヴァンギャルド」展開催。図録作成。演劇博物館の未整理パンフレット、ポスター写真を中心に展示を構成。パンフレットとポスターに関しては、演劇博物館のデータベース科研の作業と連動して調査を進めた。写真に関しては、それがロシア演劇の資料であることすらデータに反映されていないものもあり、改めて調査をし直した。当初は3月27日までの予定であったが、震災の影響で4月13日まで延長となった。研究目的としていたカーメルヌイ劇場の研究成果はここで発表された。

(5) モダニズム期の〈世界劇場〉の理念に関する研究の成果は、演劇映像学連携研究拠点の演劇論翻訳プロジェクトに知識として提供した。このプロジェクトの枠内で、ロシア象徴主義の重要な演劇論のいくつかが翻訳されたが、翻訳対象選定会議に参加し、翻訳すべき論文に関する助言をした。

(6) 当初の研究計画に挙げたもののなかで、メイエルホリド劇場とカーメルヌイ劇場の論争に関しては、具体的な研究をあまり進め

ることができなかった。これについては今後双方の演劇をもう少し詳しく調査したうえで、比較研究を行いたい。また、本研究においてメイエルホリドの演劇の重要性と日本での研究不足が実感されたため、今後しばらくはメイエルホリドを中心とする研究を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 上田洋子 フセヴォロド・メイエルホリドの演劇における構成主義再考、演劇研究、査読有、2011、34、1—15

② Йоко УЭДА Возможность исследования русско-японского обмена опытом в области театра в Театральном музее им. Цубоути. Национальный театр в контексте многонациональной культуры. (論集、Три квадрата)、査読無、2010、185—192

③ Ken HAGIWARA, Yoko UEDA Possibilities of Collaboration between a Theatre Museum and an Institution for Theatre Research: On the International Institute for Education and Research in Theatre and Film arts at the Theatre Museum of Waseda University. Capturing the Essence of Performance: The Challenges of Intangible Heritage. (論集、P.I.E. Peter Lang)、査読無、2010、125—136

[学会発表] (計6件)

① Йоко УЭДА Мейерхольд и театральный конструктивизм. Мейерхольд и межкультурный диалог 20 века. 2010年12月18日、早稲田大学

② Йоко УЭДА Первый гастроли театра Кабуки в СССР (по материалам коллекции советских и японских журналов и газет из фондов Театрального музея им. Цубоути. XI Международные чтения «Театральная книга между прошлым и будущим». 2010年11月24日、ロシア国立芸術図書館 (モスクワ)

- ③ 上田洋子 ロトチェンコ／ステパーノフとメイエルホリド —演劇の構成主義は展開しえたのか、ロトチェンコ＋ステパーノフ ロシア構成主義のまなざし 展記念講演（招待講演）、2010年10月30日、宇都宮美術館
- ④ Yoko UEDA The Meyerhold Exhibition in Tokyo. SIBMAS Munich Congress 2010. 2010年7月27日、国立民族学博物館（ミュンヘン）
- ⑤ Йоко УЭДА Возможность исследования русско-японского обмена опытом в области театра в Театральном музее им. Цубоути. VI Михоэлсовские чтения. 2009年11月25日、ロシア国立芸術図書館（モスクワ）
- ⑥ 上田洋子 シギズムンド・クルジジャンフスキイの散文における演劇の要素、日本ロシア文学会全国大会、2009年10月25日、筑波大学

〔図書〕（計 3件）

- ① 上田洋子（編著）他、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、コレクションに見るロシア演劇のモダニズムとアヴァンギャルド（展示図録）、2011、53
- ② 木村涼（編著）、兎玉竜一、上田洋子、早稲田大学演劇博物館、二世市川左團次展 — 一生誕130年・没後70年によせて—（展示図録）、2010、43-46
- ③ 上田洋子（編著）他、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、メイエルホリドの演劇と生涯 — 没後70年・復権55年（展示図録）、2010、68

〔その他〕

- ① 上田洋子（展示企画）コレクションに見るロシア演劇のモダニズムとアヴァンギャルド展、2011年3月1日～4月13日、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- ② 上田洋子（展示企画）メイエルホリドの演劇と生涯 — 没後70年・復権55年展、2010年3月1日～4月27日、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上田 洋子 (YOKO UEDA)
早稲田大学・演劇博物館・助手
研究者番号：40505400